

韓国の金融・経済教育課程の比較分析

－2015 年改訂教育課程を中心に－

金智雄(釜山教育大学校)

1. 序論

2021 年は 1 人当たり 1 口株式口座を持っている時代になり、いつにも増して国民の関心が高かった年だった。¹また、日々急騰する物価と住宅価格によって、さまざまな形で資産を増やそうとする試みがマスコミで話題になったりもした。しかし、暗号資産の価値暴落や、国際情勢の不安定に起因した証券市場の大きな変動も証明され、韓国社会は経済・金融教育を今まで以上に切実に要求するようになった。

これに対し、本研究では 2022 年下半期に予定された 2022 年改訂教育課程の総論および各論告示を控え、現行の 2015 年改訂教育課程での金融・経済教育課程を分析し金融のスキルを育成できるよう設計されているかを確認し、今後の改訂教育課程で現行の教育課程の強みを維持すると同時に、補完が必要な要素を見つけようと思う。

2. 分析基準の設定

世界的にも金融・経済のスキルをコアスキルと見ている状況で、韓国は OECD で提示している金融の教養を育成できるよう努力している。2021 年 3 月、大韓民国金融監督院傘下の金融教育協議会は法的機関としての地位を持つことになり、2020 年金融教育標準案を改訂・普及し、2021 年には金融リテラシー・マップ(Financial Capability Map)を構成し、ライフサイクル別に必要なスキルを育成できるようにした。

これに対し、本研究は金融教育協議会で提示した金融リテラシー・マップを分析基準として、OECD が要求するスキルと韓国の金融・経済教育が目標とするスキル間の整合性を分析しようと思う。金融リテラシー・マップと現行の教育課程の金融・経済教育課程の教科(目)編成、内容要素などを比較し、現在の教育課程が金融のスキルを育成できるように設計されているかを確認した。

3. 金融・経済教育課程の分析

3.1 分析基準－金融リテラシー・マップ(Financial Capability Map)の構成

金融教育協議会で示した金融リテラシー・マップは、ライフサイクルによって 5 段階に分類し、生涯を過ごしながらか実際の金融生活に必要なスキルを分類した。下記の[表 1]は、韓国の金融リテラシー・マップのライフサイクル別である。

¹ '1인 1 계좌' 시대... 주식거래 활동계좌 수 '5000 만' 넘겼다, 파이낸셜 뉴스 (<https://www.fnnews.com/news/202108072041294619> 2022.07.13. 최종 열람)

ライフサイクル	学童期	青年期	成人期	壮年期	老年期
年代	小学校	中・高等学校	大学・新社会人 (新入社員)	成人 (30歳以降)	引退後

[表 1] 韓国の金融リテラシー・マップのライフサイクル別

[表 1] のような 5 段階のライフサイクルにそれぞれ I. 家計財務管理、II. 資産管理、III. 信用管理 IV. リスクマネジメント、V. 金融活用、VI. ライフプランシミュレーションの 6 つのスキルに大きく分類した。本研究では学童期の金融のスキルと小学校の教育課程を、青年期の金融のスキルと中・高等学校の教育課程を比較・分析し、現行の 2015 年教育課程の金融・経済教育課程を分析した。

3.2 分析内容－小学校の教育課程

小学校の教育課程の中で金融・経済を扱っている科目は社会科と実科だ。以下の[表 2]と[表 3]は、それぞれ小学校の社会科の内容の仕組み表と小学校の実科の内容の仕組み表のうち金融・経済関連の内容を扱っている部分の重要概念および内容要素を抜粋したものだ。

領域	重要概念	内容要素	
		3-4 年生	5-6 年生
経済	経済生活と選択	希少性、生産、消費、市場	家計、企業、合理的選択
	市場と資源配分		自由競争、経済正義
	国家経済		経済成長、経済安定
	世界経済		国家間競争、相互依存性

[表 2] 小学校の社会科の内容の仕組み表のうち金融・経済関連の領域

領域	重要概念	内容要素
		小学校(5～6 年生)
資源管理と自立	管理	時間・お小遣いの管理

[表 3] 小学校の実科内容の仕組み表のうち、金融・経済関連の領域

小学校の社会科教育課程の中で、金融のスキル関連の内容は 3～4 年生の希少性と 5～6 年生の合理的選択がある。二つの内容要素は学童期の家計財務管理のスキルと関連している。小学校の実科教課程では「時間・お小遣いの管理」を学童期の家計財務管理スキルと関連していると判断した。

3.3 中・高等学校の教育課程

中・高等学校の教育課程で金融・経済教育を扱っている教科は、小学校の教育課程から続く社会科と技術・家庭科である。また教養科目である「実用経済」も金融・経済教育のための教科として設計されている。以下の[表 4]から[表 10]は、中・高等学校の教育課程のうち金融・経済教育を扱う教科(目)の内容の仕組み表だ。

領域	重要概念	内容要素
経済	経済生活と選択	希少性、経済体系、企業の役割、資産管理、信用管理
	市場と資源配分	市場、需要法則、供給法則、市場価格
	国家経済	国内総生産、物価上昇、失業
	世界経済	国際取引、為替レート

[表 4] 中学校の社会科の内容の仕組み表のうち金融・経済関連の領域

領域	重要概念	内容要素
資源管理と自立	管理	青少年の自己管理
	生涯設計	生涯設計と進路探索

[表 5] 中学校の技術・家庭科の内容の仕組み表のうち金融・経済関連の領域

中学校の社会科の教育課程の場合、一般社会の経済の領域で金融・経済教育を扱っている。この中で金融のスキルと関連がある内容要素としては、希少性、資産管理、信用管理がある。これは金融リテラシー・マップの家計財務管理、資産管理、信用管理の領域と関連があると見た。技術・家庭科の場合、青年期の自己管理が家計財務管理の領域と対応すると判断した。また、生涯設計と進路探索はライフプランシミュレーションと関連した。

領域	重要概念	内容要素
人間と共同体	市場	・ 合理的選択 ・ 国際分業 ・ 金融設計

[表 6] 高等学校の社会科(統合社会)の内容の仕組み表のうち金融・経済関連の領域

領域	内容要素
経済生活と経済問題	・ 希少性、合理的選択 ・ 費用と便益、経済的誘因 ・ 市場経済体制の特徴 ・ 家計、企業、政府の経済活動
市場と経済活動	・ 需要、供給 ・ 労働市場、金融市場 ・ 市場均衡 ・ 資源配分の効率性、余剰 ・ 市場の失敗、政府介入、政府失敗
国家と経済活動	・ 経済成長、韓国経済の変化 ・ 国民経済の循環、国内総生産 ・ 失業、インフレ ・ 総需要、総供給 ・ 財政政策、金融政策
世界市場との貿易	・ 貿易原理 ・ 貿易政策 ・ 外国為替市場、為替レート ・ 国際収支
経済生活と金融	・ 収入、支出、信用、貯蓄、投資 ・ 資産と負債の管理 ・ 財務計画の樹立

[表 7] 高等学校の社会科(経済)の内容の仕組み表

領域	内容要素
個人と国家の経済生活	・合理的選択と費用便益の分析 ・経済指標の変化と経済生活 ・経済主体の相互依存と政府政策
所得と消費	・所得と予算の樹立 ・消費者の権利と責任 ・合理的消費と情報の活用
貯蓄と投資と保険	・ライフサイクルとお金の管理 ・自己責任の原則と預金者の保護制度 ・貯蓄、投資、保険、年金
負債と信用	・負債と信用管理 ・債務者の責任 ・さまざまな支払い手段
就業と創業	・進路と就業計画 ・創業方法と計画 ・労働者と企業の役割と責任

[表 8] 高等学校の教養科(実用経済)の内容の仕組み表

高等学校の社会科の教育課程の中で[表 7]の統合社会教科の場合、合理的選択、金融設計がそれぞれ家計財務管理、ライフプランシミュレーションと関連している内容と見た。[表 8]の経済教科の場合、内容要素である希少性、合理的選択は家計財務設計、経済生活と金融の領域は領域全体が家計財務管理、信用管理、ライフプランシミュレーションの領域に関連する内容要素となっている。

一方、[表 9]の実用経済科目は、全領域が金融関連内容を扱っていることが確認できる。個人と国家の経済生活、所得と消費は家計財務管理、貯蓄と投資と保険の領域は資産管理、リスクマネジメント、金融活用と関連している。負債と信用は信用管理、金融活用と就職と創業はライフプランシミュレーションと関連がある。

領域	重要概念	内容要素
資源管理と自立	管理	・経済的自立の準備 ・持続可能な消費生活の実践
	生涯設計	・家族の生活設計 ・自立した老後生活

[表 9] 高等学校の技術・家庭科(共通科目)の内容の仕組み表のうち金融・経済関連の領域

領域	重要概念	内容要素
資源管理と生活文化	管理	・消費市場の理解と消費者の購買行動 ・家計財務設計 ・消費生活と家計財務関連の職業・進路開発

[表 10] 高等学校の技術・家庭科(家庭科学)の内容の仕組み表のうち金融・経済関連の領域

技術・家庭科の場合、家庭分野の資源管理の領域で金融・経済教育関連の内容が構成されていることが確認できる。共通科目の技術・家庭科目と進路選択科目である家庭科学科目の両方で家計財務管理とライフプランシミュレーションに関する内容を扱っている。

3.3 まとめ

学級	教科(目)名	金融リテラシー・マップのスキル
小	社会	家計財務管理
	実科	家計財務管理
中	社会	家計財務管理、資産管理、信用管理
	技術・家庭	家計財務管理、ライフプランシミュレーション
高	統合社会	家計財務管理、ライフプランシミュレーション
	経済	家計財務管理、信用管理、ライフプランシミュレーション
	実用経済	家計財務管理、資産管理、信用管理、リスクマネジメント、金融活用、ライフプランシミュレーション
	技術・家庭	家計財務管理、ライフプランシミュレーション
	家庭科学	家計財務管理、ライフプランシミュレーション

[表 11] 経済・金融の教育課程と金融リテラシー・マップのスキルとの関連内容

[表 11]で明らかになったように、現行の 2015 年改訂教育課程は家計財務管理のスキルに最も多くの部分を割いていることが明らかになった。学習者が健康な消費生活ができるよう強調しているものと解釈できる。また、ライフプランシミュレーションのスキルも中学校の教育課程から持続的に登場していることから、進路設計と関連して財務設計のための計画を樹立することを重要視するものと判断した。

しかし、資産管理、信用管理、リスクマネジメント、金融活用などのスキルはほとんど扱っておらず、実際の金融を活用できるスキルを育成できるかどうかという疑問を提起することができた。特に実用経済科目の場合、金融のスキルの全領域を扱っているが教養科目に該当する科目であり、学生の選択の可能性が低い。そのため経済・金融に特に関心がある学習者でなければリスクマネジメント、金融活用の領域は小・中・高の過程で接する機会がほとんどないと見られる。

4. 意義及び今後の課題

本研究を通じて、韓国の金融・経済の教育課程が学習者の合理的選択を強調し、経済的な生涯設計の能力を育てることに集中していることが確認できた。一方、実際の金融活用と関連したスキルは、学習する機会が相対的に少ないという事実もわかった。ただし、本研究では内容の仕組み表上の重要概念と内容要素だけを分析し、代替的な傾向性を把握することに止まったという点で限界が存在する。また、分析の基準とした金融リテラシー・マップも大きな領域を中心に分析したため、基準としての限界もある。これに対し今後の研究では、具体的な達成基準の分析と共に金融リテラシー・マップの細部要素の分析を通じて、さらに深みのある議論が行われることを期待する。

参考文献

- 교육부 (2015) 「2015 개정 사회과 교육과정」 교육부
 교육부 (2015) 「2015 개정 기술·가정/정보과 교육과정」 교육부
 교육부 (2015) 「2015 개정 고등학교 교육과정」 교육부
 금융교육협의회 (2020) 「초·중·고 금융교육 표준안 개정 연구」 한국교육과정평가원
 금융교육협의회 (2021) 「금융역량지도」 금융감독원
 조운진 (2021) 「'1인 1계좌' 시대... 주식거래 활동계좌 수 '5000만' 넘겼다」 파이낸셜 뉴스
 (<https://www.fnnews.com/news/202108072041294619> 2022. 07. 13. 최종 열람)

(翻訳責任者：荻須郁奈)